

7. お手入れのしかた

△注意

- 警報器の表面が汚れた場合は、水または石けん水で浸した布を、よくしぼってふき取ってください。取り付ける前に警報器がぬれていなことを確認してください。
- 電源プラグや取り付け面に付着したほこりをふき取ってください。
- ガス検知部にほこりがついていたら取り除いてください。
- 電源プラグにはほこりが付着している場合は、ほこりを取り除いてください。火災の原因となります。

おねがい

- お手入れするときは、警報器の内部に水が入らないように注意してください。
- アルカリ性洗剤、塩素系漂白剤、ベンジン、シンナー、アルコールなどを使うと、警報器本体の表面を傷めることができますので使用しないでください。
- 中性洗剤などを使ったときは、警報器本体の表面に傷がついたら、しばらくランプが赤色に点灯したり、警報音が鳴りやまないことがあります。

お手入れの際の警報器の取り付け・取り外し

- 〈取り外しかた〉**
- 1 電源コードをコード振れ止めから取り外す。
コード振れ止めを外すと、電源コード、ケーブルなどの線が抜き出します。
 - 2 取付金具から警報器を取り外す。
取付金具を外すと、警報器が取り外せます。
- 〈取り付けかた〉**
- 1 取付金具に警報器を取り付ける。
取付金具の上部に「○」マークがある方向で、警報器の上部に「○」マークがある方向で取り付けます。
 - 2 電源コードをコード振れ止めに差し込む。
コード振れ止めを差し込むと、電源コードが自動的に固定されます。

12

13

14

15

16

17

8. 故障かな?と思ったら

おねがい

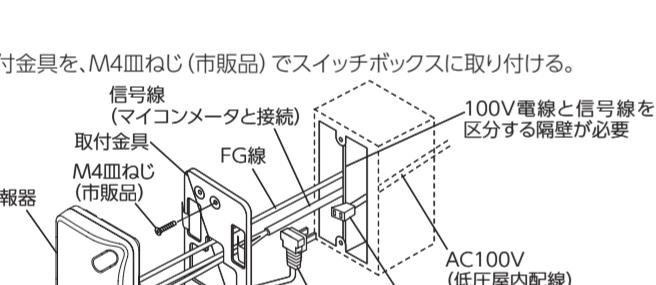
- お手入れするときは、警報器の内部に水が入らないように注意してください。
- アルカリ性洗剤、塩素系漂白剤、ベンジン、シンナー、アルコールなどを使うと、警報器本体の表面を傷めることができますので使用しないでください。
- 中性洗剤などを使ったときは、警報器本体の表面に傷がついたら、しばらくランプが赤色に点灯したり、警報音が鳴りやまないことがあります。

9. アフターサービスについて

お手入れの際の警報器の取り付け・取り外し

- 〈取り外しかた〉**
- 1 電源コードをコード振れ止めから取り外す。
コード振れ止めを外すと、電源コード、ケーブルなどの線が抜き出します。
 - 2 取付金具から警報器を取り外す。
取付金具を外すと、警報器が取り外せます。
- 〈取り付けかた〉**
- 1 取付金具に警報器を取り付ける。
取付金具の上部に「○」マークがある方向で、警報器の上部に「○」マークがある方向で取り付けます。
 - 2 電源コードをコード振れ止めに差し込む。
コード振れ止めを差し込むと、電源コードが自動的に固定されます。

12

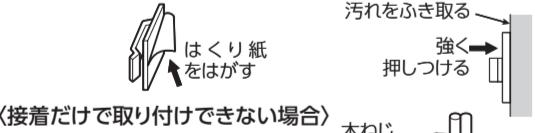


3-2 警報器の取り付け(コード振れ止めの取り付けを含む)

△注意

- 警報器を取り付ける際には、電源プラグをコンセントから抜いて、作業を行ってください。感電・障害・誤動作の原因となります。
- 電気設備技術基準および内線規程により、電源コードはステップルや釘などで固定しないでください。
- 電源コードの上に重いものを置かないでください。

①コード振れ止めを壁面に固定する。



〈接着だけで取り付けできない場合〉

木ねじを使用して固定する。



②電源コードをコード振れ止めにはめ込む。



③警報器を取付金具に取り付ける。



おねがい

- 余った電源コードは、ガス検知の妨げにならないよう、警報器のガス検知部から離して置いてください。

3-3 マイコンメータとの接続

△注意

- FG線および信号線の接続は確実に行ってください。
- FG線はアース接地用ではありません。アース接地しないでください。
- FG線は、他の信号線と分けてください。
- 信号端子には極性がありますので注意してください。

18

19

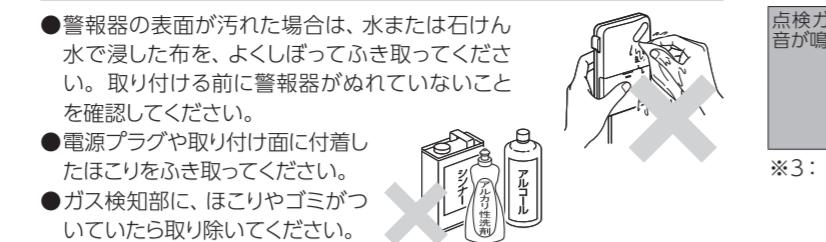
20

21

22

23

お手入れ



こんなときは

- | ここを確認して | こう処置してください |
|---|---|
| 点検ガスで警報音が鳴らない。
(P.21「4-2 ガス警報機能の点検」を参照) | 正しい位置で点検してください。
(P.21「4-2 ガス警報機能の点検」を参照) |
| 点検ガス採取器にガスが採取されないことがあります。
(P.21「4-2 ガス警報機能の点検」を参照) | 点検方法の順序を読みください。
(P.21「4-2 ガス警報機能の点検」を参照) |

※3: そのままガスを使い続けると、マイコンメータがガスをしゃ断します(マイコンメータがガスの使いすぎや長時間のガスの使用、器具のガスもれを検知し、ガスをしゃ断する機能によるものです)。

9. アフターサービスについて

- 添付の保証書に基づき、保証期間は警報器本体に表示された交換期限の期間内となります。万一異常が生じた場合は、速やかにお買い求めの販売店に連絡し保証書をご提示ください。保証書の記載内容に基づき、販売店が点検または交換いたします。
- 警報器に異常がある場合は、修理を依頼される前に「8. 故障かな?と思ったら」の項目、処置をご確認ください。処置をしても異常がある場合は販売店に連絡してください。
- アフターサービスについて、ご不明な点がありましたら、販売店までご連絡ください。
- 引っ越しをされたときは、販売店までご連絡ください。

10. 仕様

項目	XH-681G-L	XH-681G-S
種 別	液化石油ガス用ガス漏れ警報器(誤報防止型)	
対象ガス	LPGガス	
検知原理	熱線型半導体式	
警報濃度	爆発下限界 ^a の1/100以上、1/4以下	
警報方式	ランプ赤点灯 音合成音、自動復帰式	
応答時間	30秒以内	
警報音量	70dB(A)/m以上	
電 源	AC100V 50/60Hz	
消 費 電 力	監視時約0.6W、警報時約1.0W	
外部出力信号	有機性オーブンコック出力(マイコンメータ専用) 監視時OFF、警報時ON/OFF、 出力信号遅延時間約30秒	
使用温度範囲	-10°C~40°C(結露しないこと)	
寸 法	幅70×高さ120×奥行き25mm(突起部除く)	
質 量	約200g	約120g
電 源 コ ード	長さ2.5m、予備コンセント付き 長さ30cm、予備コンセントなし	
※4: 爆発下限界	爆発は、空気に対するガスの割合がある範囲になったときに起こる可能性があります。その範囲を爆発限界といって、最高濃度を爆発上限界、最低濃度を爆発下限界といいます。	

※4: 爆発下限界
爆発は、空気に対するガスの割合がある範囲になったときに起こる可能性があります。その範囲を爆発限界といって、最高濃度を爆発上限界、最低濃度を爆発下限界といいます。

施工説明【施工される方へ】

1 施工される方へのお願いとご注意

お願いとご注意

- 警報器の取り付けは、この施工説明に従って指定された取り付けを行ってください。
- 取り付け終了後に、必ず動作確認を行ってください。万一、動作不良があつたときは交換してください。マイコンメータと接続される場合は、マイコンメータの取扱説明書および設置工事説明書に基づいて動作確認を行ってください。
- 取り付け終了後に、P.23「7-1 警報器の説明」「7-2 お客様への周知事項」について、必ずお読みになってください。
- 取り付け前に必ずお読みいただき、お客様や他の人々への危険や損害を未然に防止するため、必ずお守りください。注意事項は、誤った取り扱いによる危険や損害の程度を、下記の表示で区分しています。

△警告

- 分解や改造はしないでください。
分解的原因になります。
警報器を落させるなど、衝撃を与えないでください。
- 故障の原因になります。

△注意

- 警報器に耳を近づけて、警報音を聞かないでください。
耳障害などの原因になります。
正しい取扱位置に取り付けしてください。
- カーテンウォールなどで仕切られるところ。
誤動作や故障の原因になります。
- 燃焼器具などの排気、湯気、油煙などが直接かかるところ。
センサ寿命が短くなったり、誤動作するおそれがあります。
- 振動、衝撃の激しいところ。
誤動作や故障の原因になります。
- 給排水口、通路ドア付近などの風通しのよいところ、すきま風の入るところ。
警報が遅れる原因になります。
- 使用時しか電源を入れないところ。
警報が遅れる原因になります。
- 台所設備などでさえぎられるところ。
警報が遅れる原因になります。
- 浴室、水のかかる場所、水滴がつく場所、結露する場所。
感電や電気の故障の原因になります。
- 屋外。
屋外専用です。

2-2 保証書・警告表示「警報器が鳴ったら」ステッカーへの記入

保証書の所定の欄に、販売店さまの名称・住所・連絡先を記入してください。警告表示「警報器が鳴ったら」ステッカーの所定の欄に、販売店さまの名称と連絡先を記入してください。

警告表示「警報器が鳴ったら」ステッカーは、お客様の目につく場所に貼ってください。

警告表示「警報器が鳴ったら」ステッカーは、お客様の目につく場所に貼ってください。

警告表示「警報器が鳴ったら」ステッカーは、お客様の目につく場所に貼ってください。

警告表示「警報器が鳴ったら」ステッカーは、お客様の目につく場所に貼ってください。

警告表示「警報器が鳴ったら」ステッckerは、お客様の目につく場所に貼ってください。

<p